

青山学院大学総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」主催

『旅立ち—母と子の6,954キロ—』上映会

～映画を通してアフリカの難民問題を知る～



作品介绍：ルワンダの難民キャンプで子ども3人を育てるコンゴ出身のシングルマザー、ムカムソニ。「こんな場所に子どもたちの未来はない」でも、第三国定住ってなに？ フィンランドってどこ？ 6954キロも遠いの？ 子どもたちと一緒になら、絶対に大丈夫。お母さんと一緒になら、どんなところでもきっと楽しい。(第8回UNHCR難民映画祭公式ウェブサイトより)

青山学院大学総合文化政策学部「ラボ・アトリエ実習」のひとつ、通称「映像翻訳ラボ」では、その成果発表として、本年度履修生11名が字幕を担当し、「第8回UNHCR難民映画祭」(本年10月)で日本初上映された映画『旅立ち—母と子の6,954キロ—』の特別上映会を行います。

映画『旅立ち—母と子の6,954キロ—』は、ルワンダの難民キャンプからフィンランドの小さな町へ移住するまでの母子を描写した、静かなドキュメンタリー映画です。

当日は、ルワンダ、コンゴなど中部アフリカ諸国の政治経済を専門とする武内進一先生(日本貿易振興機構アジア経済研究所アフリカ研究グループ長)をお招きして、映画の背景についてお話をうかがいます。

難民問題、アフリカ情勢、異文化理解、映像翻訳(字幕作成)等にご関心のある方、ぜひお越しください。

プログラム

(1)お話「映画『旅立ち』の背景——コンゴ東部の紛争とルワンダ系住民」

武内進一先生(日本貿易振興機構アジア経済研究所アフリカ研究グループ長)

(2)映画上映『旅立ち—母と子の6,954キロ—』

(フアン・レイナ監督, フィンランド, 2012年, 56分, ドキュメンタリー)

6,954 Kilometre to Home (directed by Juan Reina, Finland, 2012)

字幕：青山学院大学総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」(宮澤淳一教授担当「ラボ・アトリエ実習」)

2013年度履修生計11名 ※指導協力：日本映像翻訳アカデミー

日時：2013年11月28日(木)

19時開始～20時30分まで(18時30分開場)

場所：青山学院アスタジオ(地下 多目的ホール)

<http://www.aogaku-astudio.com/>

入場：無料(先着順ですでお早めにお越しください)

主催：青山学院大学総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」

(宮澤淳一研究室)

協力：国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所

日本映像翻訳アカデミー <http://www.jvtacademy.com/>

お問い合わせ：宮澤淳一研究室

(media-bunka@sccs.aoyama.ac.jp)

